

平成 24 年 8 月 13 日 00079 号

編集者:佐藤 寿 春

# 北見武道通信

北見市幸町 8 丁目 4-4(佐藤整骨院内)

NPO 法人北見市武道振興協会事務局発行

直通:090-5986-0839

代表:0157-61-4804 Fax:0157-23-0581

satou.tosiharu@navy.plala.or.jp

## ニュースレター【名論卓説】金剛禅総本山少林寺創始の経緯

文筆：北見市少林寺拳法協会理事長 宮末政則

開祖宗道臣は明治 44 年岡山県で出生、8 歳で父を亡くし満州へ、政治運動家、頭山密翁、内田良平との親交があった父の祖父に引き取られた。祖父は柔道・槍・古流柔術の免許があり指導を受けることになる。

大正 15 年 16 歳の時、母親、妹 2 人、祖父が相次いで亡くなり天涯孤独となり、東京に出て頭山密翁に居候生活、陸軍板垣征四郎、石原莞爾や民間の大川周明博士の影響を受けて 18 歳で



少林寺拳法創始者 宗 道臣

昭和 55 年 5 月 12 日 69 歳 (永眠)

特務機関員として再び満州へ行くこととなった。仕事上のつながりがある十方叢林（宗教専門学校）のある太清宮へ行き陳老子（拳法の達人）に引き合わされ、仕事上潜行しやすいようにと弟子になった。比較的体格が良かったので腕を試されて陳老子に投げられるなどして、この時から拳法に興味を持つようになる。

後に陳老子に連れられ世界紅卍会（慈善、教育など社会事業を行う宗教団体）の文老子の直弟子として入門、本格的な修行をすることになる。昭和 11 年に崇山少林寺（現中国河南省）で義和門拳法脈継承の儀式をとり行い、伝法の許可を受け、第 21 代師父となったのである。昭和 20 年 8 月ソ連軍が日ソ不可侵条約を破り一方的に侵攻してきて綏陽に 109 師団（関東軍）がいたがすべて逃げてしまい国境から奉天まで逃げてくる間に赤裸々な人間関係を体験し、学歴や身分に関係なく、人間の質に差があることを発見し人生観が変わった。

引き上げ部隊 1,500 人をまとめ途中で色々な問題が発生したが話し合いや力づくで解決し無事長崎の佐世保港へついた。このときに得た体験は非常に貴重なものであった。一人の勇気と信念のあるものの行動が多くの人間の動向をある程度左右出来ると言う事を教えてくれた。その後日本に帰ってから、私の行き方にあるヒントを与えてくれたのである。

戦後の日本は道義も秩序も乱れ、このまま放置すれば、過去の輝かしい伝統を持つ日本民族も骨抜きにされ奴隷民族になりかねないと懸念され、開祖はこれからの半生を、骨のある青少年の育成に捧げようと決心したのである。

そのためには、理屈ばかり言っても人はついてきてくれないので私が情熱を燃やすことが出来た拳法の秘技を教えて、その興味でまず人を集めそして彼らに不屈の達磨の精神と釈尊の自己確立の教えを説き、開祖の体験を通じて得た人生観や世界観を聞かせ、新しい立場から出発した民族愛や郷土愛の精神を養わせようとしたのである。

参考文献（少林寺拳法 50 年史・少林寺拳法奥義・少林寺拳法その思想と技法）